

1 学力向上検討委員会構成

学力向上検討委員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	西 直子 田中 敦子
学力向上推進員	教諭(教務課長)	渋谷 恵理子
委員	教諭(小・中学部長) 教諭(高等部長) 教諭(支援課長)	森本 春輝 伊井 敏 市川 貴雄

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(高等部) 幼児児童生徒の状況		
よさ	学校生活全般において、生徒それぞれまじめに学習活動に取り組んでいる。令和5年度は、社会生活に必要な力として「コミュニケーションスキルを身につける」ことを目標に取り組み、あいさつ・返事・報告・支援要求等のスキルが向上し、生徒同士でコミュニケーションをとる場面も多く見られるようになってきている。2・3年生においては、卒業後の自分の進路についての学習や就業体験を通して、自らの将来について考えることができるようになってきている。	課題 高等部の在籍生徒は16名で、そのうち隣接する施設から通学している生徒が7名(43.8%)である。不登校傾向の生徒も入学し学習面や生活面において、個々に配慮が必要な生徒が多い。進路に関する学習や就業体験の経験を通して、ある程度自分の課題について考えられるようになってきている生徒もいるが、不登校等の課題がある生徒についても卒業後の進路先や生活を見据えて、主体的に生活課題や学習課題に取り組めるようになってほしい。
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
・卒業後の生活を見据えて、自分の課題に気づいたり、目標達成に向けて主体的に取り組んだりすることができる。	・個々の生徒が前期就業体験で明らかになった課題を後期就業体験の目標に設定することができる。 ・個別の指導計画の後期目標に前期就業体験の課題を一人につき2個以上設定し、その評価が「達成」「ほぼ達成」となる割合が80%以上となる。	・前期就業体験の現場実習(施設実習)に参加した、就労継続支援B型以上の進路を希望する生徒6名全員が、実習を通して明らかになった課題を後期の就業体験目標に入れることができた。 ・後期目標として、生徒16名に対してで35個の目標が設定されており、その評価が「達成」「ほぼ達成」となる割合が85.7%であった。 評価 B
具体的方策(教員の取組)	取り組み指標	取組状況
・前期・後期の就業体験前に、就業体験指導計画を作成し就業体験後、課題について情報共有する会を設定する。 ・振り返りや報告会の機会に、生徒自身が自分の課題や次の目標を見つけ出せるようにする。 ・個別の指導計画の後期目標ケース会において、前期就業体験での課題が、後期目標に設定されているか確認し、支援方法について共通理解を図る。	・就業体験指導計画を作成し、前期就業体験実施後、それぞれの生徒について出てきた課題を部会等で共有する。 ・個別の指導計画の後期目標に、前期就業体験での課題を一人につき2個以上設定する。	・就業体験指導計画を作成し、部会において、それぞれの生徒の目標と課題を共有した。 ・進路課と連携し、前期就業体験で明らかになった課題を共有し、後期目標のケース会議において、一人につき2個以上入っていることを確認した。
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		
卒業後の進路に一般就労や福祉的就労を考えている生徒は、それぞれの事業所や施設から求められているニーズ「社会から必要とされている力」を身につけなければならない。生徒自身がそれに気づき、早い段階から自分のこととして、主体的に取り組むことができるように指導しなければならない。就業体験も複数の事業所や施設で行い、同様の課題を指摘されることがあった場合は、これまで以上に真剣に取り組まなければならないと理解することができるし、さらに新たな課題が増えることもある。生徒自身が自分の課題に気づき、早い段階から主体的に取り組めるように今後も計画的に進めていきたいと考えている。		